



第6課 仲を深めよう

— よくある経験 —

扉

導入

第6課では、友だちと似たような経験の話を通して仲を深めていくことを目指します。友だちとの会話の中で、相手も自分と似たような経験をして、同じような思いを抱いたことがあるとわかったら、親近感を覚えることにつながります。いっぽうで、自分の経験を話したときに、相手から共感を得られなかったり、友だちの経験を聞いたときに共感を示してあげられないと、相手との距離を感じてしまうことがあります。そのような経験がないか、ある場合は具体的なエピソードを学習者に話しあわせてみましょう。

よくあるもやもや

- 経験を話す側の悩みです。相手もしたことがあるような経験を話すとき、「あるある！」と共感を得られると思って話しはじめるものですが、うまく共感を得られなかったことはないか、学習者に確認し、挙手させます。 → **POINT 1**
- 経験を聞く側の悩みです。友だちの話に共感したものの、どのようなタイミングでどんな種類のあいづちを打って共感を示せばよいかわからなかったことはないか、自分の似たような経験をどのように話しはじめたらよいかわからなかったことはないか、学習者に確認し、挙手させます。 → **POINT 2**

イラスト

STEP1 の〈もやもや会話〉の内容をイラストで表したものです。上級学習者にはこのイラストを見せながら、文字情報なしに会話のだいたいの内容や問題を把握させると良いでしょう。具体的な問題について考える作業は、次ページからのSTEP1で行うので、ここではあまり時間を取る必要はありません。



STEP1 考えよう

もやもや会話

【会話の内容と登場人物の心情】

坂下のレストラン（静さんのバイト先）で、食事をしたあと、マイクさんと静さんが話しています。マイクさんは、先日帰国したときに、母親が自分の古着（アニメのTシャツと短パン）を着ていて、びっくりした経験を話します。このような、自分をびっくりさせるようなおもしろく茶目っ気のある家族について、静さんに知ってもらいたい、「あるある！」と共感してもらいたい、家族の話で盛り上がりたと思っています。しかし、静さんからは思うような反応を得られず、彼女の似たような経験の話も引き出すことができていません。いっぽう、静さんはマイクさんの話をおもしろく感じたものの、それをどう示せばよいのか戸惑っています。また、自分の母親がマイクさんの母親とは違うタイプだと思っており、何を話せばよいのか困っています。この会話がなぜ盛り上がらないのか、そのポイントを考えさせます。

質問

【解答例】

- ① 静さんに、同じような経験がないか質問してみる。／静さんの家族はどんな性格か聞いてみる。など
- ② 「へえー」（感心を表すあいづち）／「マイクのお母さんっておもしろいね」（マイクの母親に対する評価）…他人事として聞いていて、自分の家族については語っていない。

【指導のポイント】

- マイクさんの立場から、二人で会話を盛り上げるためにどのような話し方をすればよかったのか考えさせます。
- 静さんのあいづちに注目させます。静さんのあいづちは「へえー」ですが、聞き手にこのようなあいづちを打たれたら、話し手はどんな気持ちがするでしょうか。学習者に考えさせてみてください。「へえー」は驚きや関心を表していますが、言い方によってはあまり興味がなさそうにも聞こえます（音声を参照してください）。また、相手の話を聞くだけで、自分のことを話そうとしていないことも伝わります。

スッキリ会話

<もやもや会話>と比べて、会話が楽しく続いていることを確認します。「<もやもや会話>の下線部のところは、POINTのような表現を使うと、会話がスムーズに続くようになります。そのポイントについて学習しましょう。」というような声かけを行い、次のSTEP2につなげてください。各POINTについて、ここで話しあったり、解説したりする必要はありません。



STEP2 学ぼう

POINT 1 似たような経験があるかどうかを初めに聞く

【指導のポイント】

- ここで最も重要なのは、「あのさ、～たことある？」という質問が、自分が話したい経験談を語るためのきっかけ作りの質問であるということです。聞き手は、前の話題が終了し、少し沈黙があったあとで、相手からこの質問が切り出されるため、相手に何か話したいことがあるとわかります。そのため、この質問に対しては短い返答のみをし、相手に経験を話させてあげる機会を作ります。いっぽう、この質問をされたことによって自分自身の過去の経験と照らしあわせながら、相手の話を聞くこともできます。そして、相手の話が終わったあとに自分の経験について語るすることができます。この質問は、いわば、二人で似たような経験についておしゃべりを楽しむための準備ともいえます。
- 「あのさ」は話題を切り出すための表現です。「あー、あるよ」の「あー」は、自分にも思い当たることがある、というあいづち、「え、ううん、ないなあ」の「え」は「意外なことを聞かれた」という気持ちを表すあいづちです。
- 聞き手の短い返答の代わりに、「え、なんでそんなこと聞くの？」という質問をしてももちろんかまいません。しかし、相手に何か語りたいことがあるとはっきり感じられる場合には、「あー、あるよ」と短い返答をしてあげたほうが会話の流れがスムーズにいくでしょう。

練習 1

【解答例】

- 1) A: あのさ、悪くないのに怒られたことある？
 B: あー、あるよ。／え、ううん、ないなあ。
 A: この前さー、授業中下向いてたら、先生に「寝ないで！」って言われちゃったんだ。
- 2) A: あのさ、外国人扱いされたことある？
 B: あー、あるよ。／え、ううん、ないなあ。
 A: 昨日さー、初めて会った人に、自己紹介しかしてないのに、「日本語上手ですね！」って言われたんだ。
- 3) A: あのさ、日本で自分の国の料理食べたことある？
 B: あー、あるよ。／え、ううん、ないなあ。
 A: この前さー、〇〇料理のレストランに行ったら、量がめっちゃ少なくてびっくりしちゃったんだ。



【指導のポイント】

- 第3ターンで経験を話すときに、第5課の表現を使います。練習を始めるまえに、簡単に復習をすると良いでしょう。
- レベルがそれほど高くないクラスでは、ここで、受身（～れた／られたことある？）、使役受身（～せられた／～させられたことある？）を復習しておく、次のタスクの練習がスムーズに行えるでしょう。

タスク

【指導のポイント】

- タスク話題例：「携帯落としたことある？」「電車乗り間違えたことある？」「日本で自分の国の料理 食べに行ったことある？」「ゼミで叱られたことある？」「英語で話しかけられたことある？」など。
- 注意点は、ここでの「～たことある？」という質問は、語りたい経験があるときのきっかけ作りのための質問であるということです。「東京行ったことある？→いいところだしおすすめだよ」といった単に経験の有無を問うような質問にならないようにしましょう。

POINT 2 相手の経験を自分の経験と比べながら聞いて、自分の経験も話す

【指導のポイント】

- 似たような経験があると感じた場合のあいづちは、複数組み合わせてもかまいません。ただし、「あー」といった語彙化していないあいづちは、「わかるわかる」「そうだよね」などの語彙化したあいづちに先立ちます。例) × そうだよね、あー。
- 相手と似たような経験を話す際には、まず簡潔に共通性を示すように指導します。どこに自分との共通性を感じるかは聞き手により異なります。

例) A：この前、授業中に寝ちゃったらさ、中山先生に「顔洗ってきなさい！」ってめっちゃ怒られちゃったんだよね。

①B：あー、わかる！ おれも先生にめっちゃ怒られたことある！

②B：あー、わかる！ おれも授業中に寝ちゃったことある！

③B：あーわかる！ おれも中山先生にきつこと言われたことある！

練習 2

【解答例】

- 1) 1回目：（え！）／（えー！or あー！）など
- 2) 1回目：（うん。）／（えー！）など
- 3) 1回目：（うん。）／（えー！←笑いながら or あー！）など



【指導のポイント】

- 1 回目のあいづちは、B さんの下線部の内容にあわせて打ちます。2 回目は、聞き手 (B さん) が下線部を自分の経験の有無をもとにして、自分で考えて話すため、それにともなってあいづちも変わってきます。B さんは、A さんと似たような経験があるかどうか、練習する前に少し考える時間をとってまかせません。

タスク

【指導のポイント】

- 第1ターンを経験の語りから始めるのが難しい場合は、POINT 1 の表現「あのさ、～たことある？」の質問から始めてもかまいません。
- 経験談は、ネガティブなもの (失敗談やショックを受けた話など) だけでなく、ポジティブなもの (うれしかったサプライズ等) ももちろん良いでしょう。ただ、いずれの場合も、経験談として語りたい話題は、必然的にニュース性があるものになります。
- ニュース性のある経験談が思いつかない、という学習者もいるかもしれません。しかし、ごくささいな出来事も話し方によって、おもしろい話になりうるので、そのような場合は、最近何をしたか、どんな出来事があったかを練習の前にクラス内で話しあってみてもよいでしょう。

例) 時差ボケしたことある? など

- <パターン 2: 似たような経験がない場合>の B の経験は、POINT2 で言及したように自慢話にならないよう注意が必要です。また、話題として深刻な悩みなどは取り上げないほうが良いでしょう。

STEP3 お互いについて知ろう

話そう

第6課では、最近経験したニュース性のある出来事について会話をします。ニュース性のある経験を思いつかない学習者には、練習を始める前に、ここに挙げた3つのテーマそれぞれについて、教師がサポートとなる質問をしてもいいでしょう。

例) 留学生活 日本に来て困ったこと／びっくりしたこと／とまどったこと／うれしかったことがあるかどうか。コンビニの便利さ／タクシー料金の高さ／バスの乗り方の難しさ等。

授業・先生 授業で先生に言われてショックだったこと・うれしかったことがあるかどうか。授業で困ったことやびっくりしたことがあるかどうか。先生の厳しさ／やさしさ、授業の難しさ、試験の大変さ等。



家族・友だち ホームシックになったことがあるかどうか。家族・友だちにびっくりさせられたことなどがあるかどうか。家族のおもしろいエピソード等。

【場面例】

場面を意識した会話の始め方、話題転換を自然に行う表現などに注意させます。

【場面を意識した始め方の例】

A：ああ、おなかいっぱいだね

B：ほんとー… 次授業ある？

A：ないよー、Bは？

B：わたしもないー。じゃあ、ちょっとここで休んでから行こうか

(沈黙)

B：あのさあ、〇〇たことある？…

【三者会話の場合】

学習者 A、B、C がいた場合、A の語りはじめの質問「あのさ、～たことある？」に B、C がそれぞれ答えます。あいづちは、B、C がそれぞれ類似経験の有無によって打ち分けます。A の語りのあと、B、C がそれぞれ自分の経験語りをすると良いでしょう。

<会話録音の流れ>

1 課を参照してください。

発表しよう

【フィードバック上の注意点】

■全課共通

- カジュアルな会話にふさわしい表現を使えているか。
- 場面を意識した始め方ができているか。

■6 課

- 「～たことある？」が、自分が話したい話題を切り出すためのきっかけの質問として使えているかどうか。(単に相手の経験の有無を問う質問になっていないか)
- 「～たことある？」の質問に対して、短い返答のみで返せているか。(相手に経験を話させてあげることができているか)



- 経験談の話し方が、5課で学習した表現応用できているか。
- あいづちを打ち分けることができているか。
- 聞き手が、話し手の話が終わったあとに、自分の場合について（似たような経験がある場合もない場合も）話すことができているか

【学習者の会話例と、フィードバック例】

学習者の会話例

- 1 A：これから授業ないよね。
- 2 B：あーないよね。私もない。
- 3 A：じゃあ、ちょっとここで時間つぶそうか。
- 4 B：あー、そうだね。
- 5
- 6 （少し沈黙）
- 7 B：あのさ、自分にびっくりしちゃったことある？
- 8 A：あまりないかな。
- 9 B：こないださ、わたしニキビになったので、薬を塗って寝てしまった。
- 10 で、夜中にトイレに行ったとき、自分の顔を鏡で見たらさあ、
- 11 A：うん。
- 12 B：びっくりしちゃったんだ。
- 13 A：え？
- 14 B：その薬は、黒い薬なので、顔が真っ黒だったんだ。
- 15 それでびっくりして、叫んでしまった。
- 16 A：そうなんだー。

フィードバック例（教師のコメント例）

★カジュアルな会話にふさわしい表現か

- 全体的にカジュアルな会話にふさわしい表現を使えているのがいいですね。
- 10行目「で」などの話しことばの接続詞の使い方などが自然です。
- 9行目「ので」は「から」に変えたほうがいいでしょう。

★場面を意識した始め方ができているか

- 「食堂で昼ご飯を食べた後、次の授業がないのでおしゃべりをする」という場面を意識した会話の自然な始め方ができています。
- 話題転換の表現「あのさ」の使い方も上手です。



★6課の学習項目について

Aさんへ

- 「～たことある？」の質問に対して、短い返答のみで返せており、相手に経験を話させてあげることができています。
- しかし、8行目、冒頭に「え」など、意外なことを聞かれた、という気持ちを表す表現を使えるとより自然になるでしょう。
- Bさんの話に対して、もう少し驚きを示すあいづちを打ったり、経験に対する評価を述べたほうが、Bさんが話しやすくなるでしょう。

例) うわ、そうなんだ！ それはびっくりだね！

- また、似たような経験がある場合も、ない場合も自分の経験について話したほうがいいでしょう。

Bさんへ

- 「～たことある？」が、自分が話したい話題を切り出すためのきっかけの質問として使えています。
- 経験談の話し方に、5課で習った表現を使うことができています。しかし、話の順番が、「夜中にトイレに行ったとき、自分の顔を鏡で見たら、びっくりしちゃったんだ」より、「夜中にトイレで鏡を見たら、顔が真っ黒だったんだ」のほうが、より驚きが伝わりやすくなります。
- また、「黒い薬なので、顔が真っ黒だったんだ」と、理由を先に述べるよりも、「顔がまっくらだったんだ」「あとで、薬の色が黒かったことを思い出したけど」のように、理由をあとで述べたほうが聞き手に興味を持たせることができます。
- 「びっくりしてぎゃあって叫んじゃった」のように、セリフを入れるとさらにドラマチックな語り方になるでしょう。

コラム⑥ その文、長くない？

【指導のポイント】

- 経験談など長くまとまった内容を話す際に、一文を短くすることで、話をわかりやすくする技術についてです。
- 時間がない場合は取り上げる必要はありませんが、学習者にこのような問題が出てきた際に、適宜コラムのページを一緒に見ながら指導していただくと良いでしょう。
- 学習者の長くわかりにくくなってしまった文を、どのように修正すべきか、クラスで一緒に考えてみる時間を取っても良いですね。